

熊谷市総合戦略策定の考え方

まち・ひと・しごと地方創生は、人口減少社会に突入した地域の実情を把握し、地域の人々の生活を充実させ、持続可能な都市として再構築しようとするものである。

熊谷市の優位性と弱点を認識したうえで、社会の変化と住民ニーズを的確にとらえ、熊谷市民が一丸となって自らのまちを変えていかなければならない。

今回の総合戦略策定を機に市民が総活躍できる熊谷市となるために、「変わる！熊谷」を意識し、実践していかなければならない。

今から変えていかなければならないポイントとしては、

産業・雇用では、仕事をつくり、所得を上げること。若年層の就職を市内に留め、かつ正規社員としての雇用を確保すること。新幹線停車駅を有し、各種の高校が立地する優位性を生かした企業誘致を推進すること。

工業では、既存の中小企業の生産性向上と販路拡大のために、ネットワークを確立し、稼ぐ力を養うこと。

商業では、中心市街地の骨格を維持する大型店舗の連携と、まちづくりの担い手を育成し、都市機能の充実を図ること。

農業では、地域資源のひとつである農地を有効に活用し、農業大学校と連携した安心安全な作物の生産、6次化も視野に稼ぐ力を養っていくこと。

出産・子育てでは、希望する子供の数を授かれるように、若年層が子育てしやすい環境を整備し、次世代を担う子供たちを行政及び市民の力で支え、守っていかなければならないこと。

熊谷市の年少者、子育て世代及び高齢者が一体となった、循環型で支えるシステムで、出生数が向上し、持続する都市となる。

都会ではないが、閉鎖的な地方の一都市でもなく、自然を有し、四季の祭りやスポーツイベントが開催され、東京通勤圏である立地を生かし、あらゆる世代の日常生活が充実できることを、広くアピールすることで、人口バランスの確保に努めていく。

総合戦略の策定に当たり、現状での危機感と将来の希望をもって、市民の日常生活の充足により幸せの実現を図っていくものとする。